第六講　長めの文章をグループ分け

その1《評論》第一講　その1の続き

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

すぐれた芸術家は、はげしい意志と決意をもって、既成の常識を否定し、時代を新しく創造していきます。それは、芸術家がいままでの自分自身をも切りすて、のり越えて、おそろしい未知の世界に、おのれを賭けていった成果なのです。そういう作品を鑑賞するばあいは、こちらも作者と同じように、とどまっていないで駆け出さなければなりません。だが、芸術家のほうは、すでにずっとさきに行ってしまっているわけです。追っかけていかなければならない。どうして、こういうものを描いたんだろう——どうして、こうなったんだろうということを、心と頭、全身で真剣に考え、その距離をうずめていかなければならないのです。

創作者とほとんど同じ緊張感、覚悟をもって、逆にこちらも、向こうをのり越えていくという気持でぶつからないかぎり、ほんとうの芸術は理解できないものです。つまり、見るほうでも創造する心組みでぶつかっていくのです。

今まで、まるで想像もできなかった世界に、身を投じる緊張感は、すぐれた芸術に積極的にふれたばあいに、かならずおこる気分です。それは確かに、けっしてここちよいというものではない。まして作品に追いついていけないばあいには、正直に言って、疑惑と苦痛感を覚えるものです。

すぐれた絵の前で、悲壮な顔をして見ている人がよくありますが、「アイツ、ブッてやがる」などと、バカにしてはいけません。髪をカキむしったり、ため息をしたり、森の中でライオンかなにかに出っくわしたときのように、すごい目で、前のほうをにらんでいる、苦痛そのものの表情は、そういう緊張感からきているのです。

ところで、いったんそれがつかめ、自分自身のものにすることができると、急に命がぐっと力づよく飛躍します。そこにこそ、大きな喜びがあるのですが、しかしまた、それすらも苦痛に似た、それと背中あわせのよろこび、つまり歓喜です。うんうん、と言って、息もつけないような、心をふるいたたせ、心身に武者ぶるいみたいなものを感じさせる前進的な充実感なのです。だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

から、いずれにしても、たんにここちよいとか、「ああ、いいわね」とかいうような、無責任な感動ではないのです。

さて、このような激しさをもった芸術、わかる、わからないということをこえて、いやおうなしに、ぐんぐん迫って、こちらを圧倒してくるようなものは、いやったらしい。

例をあげましょう。たとえば、ピカソの絵の多くは、正直にいって、ただ楽しいというものではないでしょう。むしろ、一種の不快感、いやったらしさを感じさせるにちがいありません。それは、彼こそ今日のすぐれたアヴァンギャルドだからです。

私が先年、パリに行ったとき、ちょうど「立体派」の回顧展をやっていました。今世紀のはじめ、新しい絵画の口火を切ったこの芸術運動は、久しいあいだ、「でたらめだ」とか、「絵ではない」などとののしられ、狂気の代名詞にさえ使われていました。ところが、半世紀たった今日では、すでに世界絵画の古典として頭を下げられるようになったのです。たいへんな評判で、会場は押すな押すなの騒ぎでした。

ピカソの大傑作、一九〇七年作の『アヴィニョンの娘たち』が出品されていました。青年ピカソが、当時パリの優美でデリケートな爛熟しきった雰囲気のなかで、大胆不敵にも、グロテスクな黒人原始芸術の手法をそのまま取り入れて作った作品で、立体派運動への第一歩となったものです。画面の左右の形式が不均衡にずらしてあり、形態、色彩は猛烈な不協和音を発しています。これが、ものすごい迫力で、会場全体を威圧しているのです。ニューヨークの近代美術館からはこんできたもので、私もはじめてナマにふれたのですが、ズーンと全身にひびいて、骨の髄までくい入ってくるセンセーションは、なまめかしいまでにいやったらしい。その偉大さ、はげしさにおいて、おそらく最高傑作『ゲルニカ』と対比していい作品であり、今世紀前半の絵画の最高峰の一つだと思います。〔中略〕

「いやったらしさ」の意味について、もう一つお話ししましょう。このヨーロッパ旅行の帰りみち、私はエジプトのカイロに立ちよりました。博物館に行きましたが、神秘をひめた数しれぬ古代の石像の中に、ひときわ燦然と光りかがやくツタンカーメン（紀元前十四世紀のエジプト王）の寝棺がかざられてありました。

これは、まっくらなピラミッドの中にひめ隠されていたものですから、数千年たった今でも新鮮に、まったく当時のままの姿をたもって、まるで、きのう作られたもののように、金色にギラギラしています。それに、ドギつい極彩色の模様がびっしりつけられているものですが、ハッとして思わずあとにさがるほど、はげしくて、すさまじい美観なのです。暑気をさえぎるために、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

厚い壁をめぐらした博物館の中で、それをじいっと見すえていると、鬼気（きき）せまる思いがします。とうてい、「ああ、きれいね」といって、楽しんでみるような代物（しろもの）ではない。

その夜、新聞記者がインタヴューに来ました。「カイロの印象はどうか、博物館に行ったそうだが」などと感想を聞くので、「エジプト芸術は、世界のあらゆる芸術のなかで、もっともすばらしいものの一つだ。それは、その〝いやったらしさ〟においてだ」と答えたら、さすがに、あきれかえった様子でした。

そこで、私一流の芸術論を一くさりやったあとで、「ゴッホだって、数十年まえは、まったくいやったらしい激しさがあったのに、もう今日では、きわめてほほえましく、優美なものになってしまっている。ブリューゲルだってそうだ。ところでエジプト芸術は四千年たった今日、なおゾッとするほど、いやったらしい。そこがエジプト芸術の比類（ひるい）のない偉大さだ」。ようやく納得したらしく、そんなほめかたをされたのは、はじめてだと、ひどくよろこんだふうで帰りましたが、翌朝の新聞にでかでかと、「日本のアヴァンギャルド画家、オカモト、エジプト芸術にたいし新説を吐（は）く」という見出しで、センセーショナルな記事がのっていました。

（岡本太郎（おかもとたろう）『今日の芸術』）

問１　次の語群について、筆者が肯定的に使っている表現にはA、そうではない表現にはBと記しなさい。

①　既成の常識
②　おそろしい未知の世界
③　苦痛そのものの表情
④　悲壮な顔
⑤　激しさをもった芸術
⑥　不協和音
⑦　はげしくて、すさまじい美観
⑧　ほほえましく、優美なもの
⑨　いやったらしい
⑩　無責任な感動
⑪　きれい
⑫　ここちよい
⑬　歓喜

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　その1　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　岡本太郎＝おかもと　たろう（一九一一～一九九六年）神奈川県生まれ。慶應義塾普通部卒。東京美術学校（東京芸術大学）中退。「芸術は爆発だ」などのことばも有名な画家、立体造形の作家。

○パブロ・ピカソ（一八八一～一九七三年）スペインに生まれ、フランスで作家活動。多彩な視点を一つの画面に集約したような立体派（キュービズム）の創始者とされる。

○ヴィンセント・バン・ゴッホ（一八五三～一八九〇年）オランダ生まれ、主にフランスで作家活動。

語句

悲壮＝ひそう→悲しさのなかに雄々（おお）しく勇ましい要素があること

歓喜＝かんき→非常に大きな喜び

武者ぶるい＝むしゃぶるい→重大な場面で、心が勇ましくふるいたち、体がふるえること

回顧＝かいこ→過去をかえりみること

口火を切る→新たにものごとを始めること

爛熟＝らんじゅく→極限まで成熟すること

大胆不敵＝だいたんふてき→度胸があって何事もおそれないこと

グロテスク→異様で不気味である様子

不均衡＝ふきんこう→アシンメトリ・左右の対称性をくずしていること

不協和音＝ふきょうわおん→整った調和ではない和音

センセーション→大騒ぎ。大評判

なまめかしい＝艶めかしい→いろっぽい。セクシーな様子

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　長めの文章をグループ分け

その２《評論》　テーマ「認識論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は考える葦である、というパスカルのよく知られた言葉があります。確かにわれわれ人間の最大の特徴は、二本足で歩くことでも、手を使うことでも、笑うことでもありません。喋ることでさえないでしょう。なんといっても考えることです。

考えるというのは哲学者の専売特許でもなければ、科学者の専売特許でもありません。人間誰もに備わっているごく普通の心の働きです。

ですが、よく考えると、考えるとはどういうことなのか、たちまちわからなくなります。

何かについて考えることはごく自然に出来ますが、何かについて考えるとはどういうことかを考えるのは自然には出来ません。たとえば平和ということについて自分なりに考えることはなんとなく出来そうですが、「平和について考えるとはいったいどういうことなのか」について考えるのは、たいへん難しいのです。

日常の営みとして「何かについて」考えることは誰もがやっていることですが、その日常の営みである「考えること自体について」考えることは、誰もがやっているわけではありません。

ま、暇な学者がやっているのです。

パスカルのように、「人間は考える」という一般的事実を述べるのは比較的やさしいのですが、「考えるとはこれこれこういうことである」と述べるのは難しいのです。

こういう難しい問題は、正面突破をはからず、側面から攻撃してみるのがよさそうです。

それが本書のわかる・わからない談義です。

われわれは「わかった？」「いやわからない」「あ、わかった」「うーん、もうちょっとでわかりそう」「もう何がなんだかわかわけ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

がわからない」などと言い交わして毎日を送っています。

　このわかる・わからないという表現は、考えるからこそ出てくる言葉です。すべてわかっていれば考えることはありません。わかるという表現すら必要ないでしょう。わからないことがあるからこそ、わかったという事態も発生するのです。わからないことがわかったと思えるようになるのは、考えたからです。考えなければ、わからないままです。

　われわれは意識的に考えるだけでなく、無意識的にも考えています。何をどう考えているかというところに気が付かないままで何かを考えているのです。考えるというのはプロセスで、途中経過ですから、その状態はなかなか捕捉出来ません。

　しかし、考えるというプロセスがなんらかの形で終結すると、わかった・わからないという比較的はっきりした心の変化を感じることが出来ます。わかる・わからないという感情が湧くのです。

　このわかる・わからないという感情の原因となる心の動きが、考えるということにほかなりません。

　思考とか理解ということが問題になると、すぐ演繹とか帰納とか還元とかいう難しい話におちいりがちですが、それは心の働きの一部で、すべてではありません。

　心の働きはもっと多様で、かつ複雑です。

　そのあたりをわかる・わからないという心の動きを手掛かりに考えてみたのが本書です。

　筆者は神経内科が専門で、その中でも高次機能障害学という分野を主として研究しています。

　何をやっているかといいますと、脳梗塞や脳出血などで不幸にして脳に損傷を生じてしまい、その結果、認知障害を来した人たちの診断や治療やリハビリです。この人たちの障害はそれまで自然に流れていた心の動きがあちこちで停滞してしまうことです。言い換えると、それまで普通にわかっていたことがわからなくなってしまうことです。

　つまり、わかるとはどういうことなのか、なぜこの人たちは簡単なことでもわからなくなってしまうのかを毎日毎日考えるのが仕事です。

（山鳥重『「わかる」とはどういうことか――認識の脳科学』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　次の語群について、筆者の論述の主題といえるものにはＡ、そうではない表現にはＢと記しなさい。

① 人間は二本足で歩くこと
② 人間は手を使えること
③ 人間は考える葦であるということ
④ 何かについて考えること
⑤ 考えることはどういうことか考えること
⑥ 平和について考えること
⑦ 難しい問題の正面突破
⑧ 演繹や帰納や還元をもちだすこと
⑨ わかるとはどういうことか研究すること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　山鳥重＝やまどり　あつし（一九三九〜）兵庫県生まれ。神戸大学大学院医学研究科修了。医学博士。東北大教授などを務めた。

○ブレーズ・パスカル（一六二三〜一六六二年）フランスの哲学者、数学者。気圧や圧力の単位にその名を遺す。主著『パンセ』。「人間は考える葦である」は、人間は物理身体としては、かよわい葦（水辺に生える細い植物）同然だが、思考できるという偉大さをもつという意味。

語句

専売特許＝せんばいとっきょ→独占的に取り扱うことを認められること

演繹＝えんえき→大きな原理や原則から考えをはじめること

帰納＝きのう→小さな個別の事例から考えをはじめること

還元＝かんげん→もとにもどすこと。大きな原理にまとめあげること。単純化すること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）先進的な作品について真ケンに考える。　①権　②件　③剣　④検　⑤険
（イ）作品を前に悲ソウな顔つきをしている。　①相　②装　③壮　④僧　⑤想
（ウ）見事な芸術作品にカン喜の声をあげる。　①歓　②感　③勘　④観　⑤冠
（エ）十九世紀の作家のカイ顧展をひらく。　①会　②回　③解　④懐　⑤開
（オ）左右のかたちの均コウを考える。　①公　②功　③抗　④衡　⑤衝
（カ）決定の途中ケイ過をよく吟味する。　①軽　②経　③径　④計　⑤継
（キ）身体に損ショウを与えるほどの事故だ。　①症　②傷　③少　④消　⑤招
（ク）音波探知機で目標を捕ソクする。　①即　②測　③速　④促　⑤捉
（ケ）キ納法的に考えて多数の事例をまとめる。　①帰　②機　③期　④着　⑤来
（コ）こころの働きが停タイしてしまう。　①対　②体　③滞　④帯　⑤退

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　長めの文章をグループ分け

その1《評論》第一講　その1の続き

《本文の対比構造》

主役＝筆者、岡本太郎の考えるほんとうの芸術

おそろしい未知の世界
悲壮な顔・苦痛そのものの表情
歓喜・激しさをもった芸術
いやったらしい・不協和音
はげしくて、すさまじい美観

⇕ **主な対比**

比較相手＝一般論
ふつう、絵をほめるばあい

既成の常識
「きれい」「ああ、いいわね」
無責任な感動
ここちよい
ほほえましく、優美なもの

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

筆者のメインメッセージとその比較相手とをグループ分けして読む、分類して読む練習を重ねましょう。前例や伝統を容赦なくぶち破ることで知られる芸術家、岡本太郎氏ですが、対比させながら文章を書くという基本路線をしっかりまもっています。「いやったらしい」とか「不協和音」とか、ふつうは肯定的には使わない表現を、筆者は「ほんとうの芸術」にかかわるものとして使っています。現代文学習、現代文入試問題への解答においても、文字通り、私たちの一般常識で決めつけず、文章自体に従って分類してやりましょう。こうした練習を通じて、文章が正しく読めるようになります。

各単語の分類については、前ページの《本文の対比構造》にまとめてあります。

模範解答

問１　①＝B　②＝A　③＝A　④＝A　⑤＝A　⑥＝A　⑦＝A　⑧＝B　⑨＝A　⑩＝B　⑪＝B　⑫＝B　⑬＝A

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　長めの文章をグループ分け

その２《評論》テーマ「認識論」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

何かについて考えるとはどういうことか
を考える
例「平和について考えるとはいったいどういうことなのか」について考える
「考えること自体について」　考える

心の動きは多様で複雑
わかるとはどういうことか

難しい問題は側面から

↕ 対比

比較相手１

人間は考える葦である（パスカル）
何かについて考えること
例「平和について考える」

比較相手２

人間の特徴
二本足で歩く・手を使う・笑う・喋る

比較相手３

難しい問題を正面突破
演繹　帰納　還元などの難しい話

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

第六講その２もその１と同様に、キーワードの分類です。前ページ《本文の対比構造》では、比較相手がいくつも出ていますが、簡潔にいえば、〝筆者のメインメッセージ⟷その他の意見〟です。ちょっと複雑な印象を与える文章も、筆者と意見とその他で書いてあるという方針で読み進めることができます。このベーシック講座では、いろいろなタイプの文章、いろいろなテーマの文章、いろいろな筆者の文章を素材にしながら、対比で読む・グループ分けして読む訓練ができるようになっています。

各単語の分類については、前ページの《本文の対比構造》にまとめてあります。

模範解答

問１　①＝Ｂ　②＝Ｂ　③＝Ｂ　④＝Ｂ　⑤＝Ａ　⑥＝Ｂ　⑦＝Ｂ　⑧＝Ｂ　⑨＝Ａ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　模範解答

（ア）③　（イ）③　（ウ）①　（エ）②　（オ）④
（カ）②　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）①　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）真剣　（イ）悲壮　（ウ）歓喜　（エ）回顧展　（オ）均衡
（カ）経過　（キ）損傷　（ク）捕捉　（ケ）帰納　（コ）停滞

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。